

徹子の部屋(トークTXT)を見よう！

これは1997年7月22日(火)の13:55～14:50に放送された「徹子の部屋」で[林原めぐみ](#)さんが出演された時のトークをテキスト化したものです。

「徹子の部屋」への出演は本人が希望していたもので、また一つ野望を征服したことになります。こころしてみましよう(笑)

なお、このテキスト化はたかのまもるさんの提供によるものです。たかのさん本当にありがとうございます。〈表現(話すこと)資料用に補正採録しました。:萩原義雄記〉

黒柳徹子:みなさまこんにちは。徹子の部屋でございます。

今日のお客様は、今大人気の声優さんでいらっしゃいます、ほんとに今、なりたい職業というのは、声優という、ま、昔ですとテレビに出たいって方が多かったんですけど、いまなるだけテレビに出ないで声を使って仕事をする、しかもそれがアニメの声をすることでもう今、人気第一位と言われている声優さんのなかでも、特に新世紀エヴァンゲリオンと言うアニメの、ええと、綾波レイと言う役柄をやってらっしゃるんで、今大変な人気の方でいらっしゃるんですが、なんと、元看護婦さんでいらしたそうです。

まあどうしたらこんな風なお仕事ができる用になるんでしょう。

また、どうしたらこのお仕事を続けていく事が出来るでしょう。

いろんな声をやってらっしゃるので、あとで、いろいろそれをまたアニメも見せていただくんですけども、また、ディスクジョッキーもやってらっしゃいまして、週に千通から、もうすごい数のお手紙がみなさんから寄せられると言うことでございます。

そういう方たちともいろいろなお話をなさったり、それからCDも出してらっしゃるんです。この方[独自の歌](#)も出してらっしゃいますし、まあ、そのなかに色々[アニメのテーマソング](#)とかあるんですが、なんととってもチャートのですね、四位になって、CDがですね、そしてアルバムの方は三位になると言う大人気でございます。

本当にあたくしが声優としてテレビと同時に始めたときは、声優さんなんですか?という感じだったんですけど、えーそれがいまや声優さんはみなさんがなりたい職業のナンバーワン。時代というのは本当にわからないものがございますけれども、林原めぐみさん、今日のお客様です。

林原めぐみ:どうもよろしくお願いいたします。バンザーイ!!



徹子:よろしくお願いいたします。うふふ。何ですか?

めぐみ:いや、この番組ですね、ずっと実は自分のやってるラジオで出たい出たいと2年ぐらい前からいってたんですよ。

徹子:ああ、そーですか。

めぐみ:いちおう主婦層に対するアピール度が薄いと言うことで結構ダメだったんですけど、やっと出ることが出来ました。ありがとうございます。

徹子:うふふ、まあ、どうもありがとうございます。

めぐみ:ほんと、お会いできてうれしいです。

徹 子:で、また、ありがとうございます。また、綾波レイというエヴァンゲリオンの役はほんと人気のある、

めぐみ:あ、はい、そうですね、なん…….そうですねえまたちょっとそのエヴァンゲリオンという作品自体が

普通のちょっと作品、アニメーションと言う作品とちょっと逸脱しているところがありまして、そのもちろん出てくる主人公、それぞれキャラクター、又ちょっと普通のアニメーションとは違って、さらに変わったところで綾波レイちゃんというほとんど喋らないんですけども、どうにも神秘的な女の子で、ええ、すごい人気のある子なんですけどね。

徹 子:今日のお召し物、突然、可愛いですけど、それはなんかお着物のようにみえますけど、

めぐみ:え、はい、そうですね、なんか、いちおう着物生地ですが洋服にしてみましたみたいな...

...

徹 子:ねえ、ほんとにね、かわいい、かわいらしいお洋服なんですけど、

めぐみ:あ、洋服はね、…….ありがとうございます。

徹 子:で、あなたのやってらっしゃる、声のなかで、もちろんそのエヴァンゲリオンの綾波レイもそうなんですけど、キティーちゃんのキティー…….

めぐみ:あ、そうですね、

徹 子:ね、キティーちゃんの声、

めぐみ:ハローキティーちゃん、今またブームになってるんですけど、

徹 子:そうですね、今みんなねー、女の子たち大変ですよ、

めぐみ:プリント倶楽部って写真のありますよね、あそこで、ねえねえプリクラやってかない?とかいう声とか

徹 子:んー、

めぐみ:あと、ピューロランドの多摩の方に遊園地があるんですけど、そこで、キティーちゃんのミュージカルをやったりとか、そういうのの声、

徹 子:声をやってらっしゃる、…….

めぐみ:ええ、

徹 子:それから、天才、平成天才バカボンのバカボンの声、これまた突然ですよ、

めぐみ:はは、そうですね、で、バカボンというと、すごい昔からやってるように思われちゃうんですけど、

ど、いちおう、リバイバルの方のバカボンなんですけど、平成がつく…….ですね。

徹 子:あ、なるほどね、それから七つの海のチコの七海、

めぐみ:ティコの七海、っていう、

徹 子:ティコの七海という、役をやってらっしゃる、

めぐみ:…….ですね。

徹 子:では、ちょっとね、せっかくですので、フィルムを拝見で…….拝借できましたのでですね、新世紀エヴァンゲリオンの綾波レイの声と、それから、ええと、スレイヤーズのリナ=インバースの声とエルマーの冒険の。

めぐみ:あー、うんうん、

徹 子:あなたがやってらっしゃる恐竜、

めぐみ:そうなんです。

徹 子:あれは恐竜なんですね、

めぐみ:恐竜なんです。

徹 子:でもかわいいこう、横縞の

めぐみ:そうですね

徹 子:これは、夏に公開されるというみなさんが待ってる、きっと、アニメだと思うんですけども、それぞれの声をやってらして、いまこれからお目にかけるのはこの夏休みのじゃないのも入ってるんだんですけど、とにかく、そのキャラクターであることには間違いないんで、それではまず最初にええと、いわゆるみんなが大好きな綾波レイの声が出る **エヴァンゲリオン** から拝見したいと思いますが、この方の声をお聞き下さい。

めぐみ:ヒヒヒ!エヴァが始まる

めぐみ:青い髪の毛ですね。

徹 子:あ、青い髪の毛があなた。

徹 子:この子があなたね。

めぐみ:そうですね。次にスレイヤーズが始まる。

めぐみ:これは、去年の劇場版の、

徹 子:で、あなたこれのなかでどれですか?

めぐみ:茶色い髪の毛、

徹 子:茶色い髪の毛、一番左側。

めぐみ:ハチャメチャな女の子なんですけども。

徹 子:全然声違いますね。

めぐみ:あはは、そうです……………

徹 子:綾波レイさんとは。

めぐみ:ええ、レイちゃんとはとにかく無感情にっていう監督からのご指示だったので、

徹 子:これがそう?

めぐみ:そうです。

めぐみ:定番な……………

(エルマーが始まる)

めぐみ:これがエルマー、

めぐみ:これはゆーきちゃんの声、ゆーきさんの声、

徹 子:TRFのゆーきさん、今の声、これね。

めぐみ:ええ、この男の子の。この青い竜です。

徹 子:これがあなた。

めぐみ:ええ。

(エルマー終わる)

徹 子:今の、エルマーの冒険、そうして拝見していると、あなたいろんな声をお出しになるのね。

めぐみ:ええ、そうですかね。

徹 子:ええ、最初の綾波レイはほんとになんか監督さんが?

めぐみ:そうなん、ほんとに無感情に、あの一、無機質に、それで、心に何もなければいけないんだけど、その表現の仕方を知らない子だという、だから技術的なこと言えば、棒読みになってることなんですけど、その棒読みのなかに何かしらある子です。ということで、すごい難しい役でした。

徹 子:でも、相手やってるひとも上手でしたね。

めぐみ:ええ。

徹 子:男の子。

めぐみ:ええ。

徹 子:そうですね、でもこれ、あの外国のいわゆるアテレコって言うんですか、外国人のやってらっしゃる役を人間がやってる場合には向こうの声が入ってるわけだから、耳で聞いて、日本語をそれに当てるわけなんだけど、この場合は元々声がないわけだから、

めぐみ:そうですね。絵を見て、こんなイメージって言う、あの一、ボリスを最初その、竜を見たときには体が大きいんで、ちょっと野太い声になりそうなところだったんですけど自分のなかでは、やっぱり監督さんの方からボリスはあくまで、体はおおきいんですけど、すごい子どもですから、ってということで、あ、そうだよな、ってエルマーとほとんど年も変わらない気持ちでやって下さいって...

...

徹 子:でも、こういうオーディション、あのオーディション、アニメのものは今でも何の役をおやりになるのもだいたいオーディションなんですか？

めぐみ:そうなんです。あの一、指名で来る場合もあるんですけども、この役をお願いしますって、でも、大概大きなものになると、あの、設定資料っていうのと、だいたいこう右側とか、正面とか、全身とかの書いてある紙と、

徹 子:アニメの、

めぐみ:そうですね。キャラクターの顔と、あと、設定資料って、こう性格付けみたいな、それをいちおう、オーディション、して、ます。

徹 子:ああ、そう。でまあ、合うかどうかって言うことを.....

めぐみ:そうですね。

徹 子:そりゃそうですね。上手か下手か、っていうことよりも、その声が、キャラクターに合うかどうか、ということで決まる.....

めぐみ:周りのみなさんとのバランスとか、やっぱり、うけるかたはベテランから、新人から、うまい人ばかりなんで、この、こう全体のバランスを見られるようです。

徹 子:でも、あなたもともと看護婦さんをしていらした、で、看護学校にもいらっしゃった、わけですよ。

めぐみ:ああ、はい、そうですね。

徹 子:で、看護婦さんをやろうとおもってらしたんですけど、その看護婦さんやってらして、このアニメの声やる人になるうというのはどういうことから？

めぐみ:で、一番最初は、あの、さらば宇宙戦艦ヤマトって言う、宇宙戦艦ヤマトって言うアニメーションが、小学校五年生のときに、担任の先生につれてってもらったんです。

徹 子:ええ。

めぐみ:で、みんなが、こう見に行きたい人.....で、そんなときにそれまではアニメのキャラってアニメが喋ってると思ってたんですね。

徹 子:あははは、その人がね。

めぐみ:ええ、人間がいるとは思ってなかったんですけど、そのころにちょうど声優さんブームみたいなものがあって、裏に人がいたんだ、っていうのにすごくびっくりして、で、ちょうどそのアニメもあの、主人公が死んでしまうんですよ。

徹 子:ほうほう。

めぐみ:なんかアニメって死なない感じがするじゃないですか。

徹 子:うんうん。

めぐみ:またこうやられてまた戻って来るみたいな、でも、死んでしまうと言う、っていう、その二つの衝撃で、まあ、そういうものに興味を持って、ただまあ、ふつうに、あの一、生活をそのまま、そりゃまあ、お嫁さんになりたーい、とか、スチュワーズさんになりたーいとかいう感覚と変わらずに声優さんになりたいって、まあ、おぼろげに思って、で、いざ、ほんとになろうかなと思ったのが、ちょうど受験期の時に、あの、看護学校の受験期なんですけど、

徹 子:ええ、もうそのころは、看護婦さんになってからお決めになったんじゃないかと、看護婦さんになろうと思うときにすでに、

めぐみ:そうなんです。で、ちょうどその受付のお姉さんがすごい態度が良くなかったんですよ。

徹 子:どっちの？

めぐみ:あの、願書を出しにいった看護学校の、

徹 子:看護学校が。

めぐみ:あ、ごめんなさい、看護学校の、あの願書の人すごい冷たくてムカッとして、で、もうそのとき、ちょうど受験勉強中だったんで、読みたい漫画とか、全部こう、読まないようにしてたんですけど、ええい、漫画読んでやる、と思って、入った本屋さんで、偶然、あの、事務所の、無料育成オーディション、ていう告知を見つけてしまって、

徹 子:声優の。

めぐみ:ええ、で、もう怒りの状態で、そのままガーッて帰って、ガーッとテープ入れて、送っちゃって、そしたら一次審査通ってしましまして、で、だから、看護学校と、養成所とこう平行している状態だったんですね。

徹 子:で、その受付の人がとても感じ悪かったんだけど、いちおうそこにあれは出したんですか？

めぐみ:ええ、出しました。落ちましたけど。アハハ。その学校は。

徹 子:その学校は落ちた、ええ、でも、そこでめげずに、あの、その、養成はしてあげるってほうには、声優のほうは入ったのに、やっぱり看護学校は続けて、

めぐみ:ええ、そうですね。あの一、なんだろな。なりたいからといってなれるっていう職業でもないと思うんですね。声優さん。やっぱりその学校も今ものすごいたくさんあるみたいなんですけど、

徹 子:あそう。

めぐみ:その学校いったから、なれるわけじゃないと思いますし、まあ、わかりやすい例で言うと、たとえば、あむろなみえちゃんのダンススクールいった人が、みんなあむろちゃんにはなれない、っていう、形で、とにかく学校も多いんですけど、まあ、現実なれるかどうかはまだわからない、ただ養成所に入れた段階なので、学校は学校でいきました。

徹 子:で、看護学校、違う学校は受かったんですね、

めぐみ:受かりまして、いちおう、ええ。

徹 子:それで看護婦さんには、

めぐみ:で、いちおう、国家免許を取って、えー、その、卒業する時点で、自分はどっちを本当にやりたいんだろう、て考えたときに、あの一、やっぱり、声優をやりたい.....

徹 子:で、声優のほうの、まあ、養成所は、

めぐみ:養成所は、ずっと行きながら、あの、で一、アルバイト、看護婦のアルバイトをしながら、ま

あ、大病院に入ってしまうと、夜勤とか、それはちょっと難しいので、医院で薬出しとか、お注射とか、そういうののアルバイトをしながら、声優さんの方の事務所に入った、って感じですね。

徹子: あぁそう、でも実際看護婦さんの方の、いわゆる病人の人達の所にいらしたりとか、そういうことはやっぱり、実習見たいのはあるんですか？

めぐみ: あ、えーと、そうですね、あの看護学校ってたぶん今でもそうだと思うんですけど、三年いちおう課程があって、あの一、一、二年が机上、つくえ上の勉強で、まあ、二年の半分くらいから三年生まるまる一年間がああ、臨床で、こう患者さんと一緒に、っていう、

徹子: で、それをおやりになった、

めぐみ: はい、

徹子: えー、

めぐみ: あちこち、外科についたり、内科に一ヶ月いたり、精神科に一ヶ月いたり、心臓外科に一ヶ月いたりって、全部だいたいまわる、一年で、

徹子: もちろんあ、看護婦さんの格好して、

めぐみ: そうですね、学生ですけど、学生の格好して、

徹子: で、いかがでした、その病人の方達と接して、

めぐみ: んー、なんて言うか、あのすごく、んー、小さな赤ちゃんの手術とかも実は立ち会ったりとかしたんですよ、でね、すごく自分が、感じたことって言うのが、すごく医学からかけ離れている所なんですけど、ああ、みんな同じなんだな、っていう、ようするに、その良い人も悪い人もお金持ちも、あの、そうじゃない人も、もう、全部開いちゃうと、同じなんだなー、っていう、幸せな人も、幸せだって思っている人も、不幸だって思っている人も、ああ、みんな同じなんだ、って、だから、同じななかで、いろいろその、あるんだなって、すごくなんか、技術的なこと、医学的なことより、精神的なことをすごく.....

徹子: ああそう、でもそれにしても看護婦さんの仕事って言うのは大変そうですね。

めぐみ: そうですね、うーん。なんか、あの、ちっちゃな子どもがものすごくさってたり、もう大病院、大病院じゃない、大会社の社長さんのような人が、めちゃめちゃ子どもだったり、

徹子: そうね、だから看護婦さんはもちろん、そういう治療とかいろいろなことにも詳しいんだけど、もう精神科医に近いくらいみんなの患者さんの気持ちがわかんないとなかなかできないところがあるでしょ、

めぐみ: そうですねえ、もう意固地になって薬を飲まない人とか、

徹子: でもそういう人にも優しく接して、とにかく飲んでもらうようにって、もってかなきゃいけないわけでしょう。

めぐみ: ううん、そうですね、なんか、人によって、あの、冷たく接する方が、あの、飲む人もいれば、逆にやさしく接しないと飲まない人もいれば、ほんと人それぞれなんですけど、

徹子: そうでしょう、そうでしょうね。あんまりやさしくするともう意固地になっちゃう人もいるでしょうから、それをもう見極めるって言うことではね、かなりねベテランになる方ほんとそういうことおわかりだと思うけど、なかなか大変だろう思いますよね。

めぐみ: 難しいですけどねえ、そうですね。

徹子: それからあと、夜通し起きてね、人間の命預かっているんですものね。看護婦さんって。

めぐみ: 実際今の病院は一人の看護婦さんが十人単位の人を見たりしてますから、ただ、学生は対一なんです。一人患者さんを受け持たせてもらって、で、その方とコミュニケーションをしな

がらっていう形なんで、ああ、やっぱり、人、一対一じゃないと難しい事もいっぱいあるなあっていう
.....

徹 子:一対一の場合はどうでした?あなたはなってみて。

めぐみ:うーん、難しいところもありますし、やっぱり割く時間が多ければ多いほど、心を開いてくれるきっかけをつかみやすいついていうか、

徹 子:そうですね、わたしの友達もかなり病気が悪いときにそういつてましたよね、看護婦さんになんか相談しようと思っても、だってみんなものすごく忙しそうなんだもん、っていうの。で、お医者様はもっと忙しそうだし、結局、誰にも相談すること出来ないんだ、って割と若い人でしたけど、そういつてましたよね。

めぐみ:ううん。

徹 子:だから、もうちょっと、患者さんの気持ちを引いてあげる役目の人がね、居たらいいのに、ってすごく思いましたけど、

めぐみ:そうですね。カウンセリングみたいな形で人をつけたら一番いいんでしょうけどねえ。

徹 子:私そう思います。それはほんとにもう治療と同時に言うべきものだって、思いますよね。まあ、そういうのしてらしてたんですけど、そこで、決めて、もうこれで声優のほうへ行こうと。

めぐみ:ええ、そうですね。

徹 子:で、それから何年位なんですか?いま。

めぐみ:ええと、養成所に入ったのがずいぶん前、まあ、十二年目くらいですか、十一年目、

徹 子:あほんと、じゃあ、プロにおなりになって、十年、

めぐみ:十年、もう、まるまる、いつてますね。

徹 子:ずいぶんたくさん役をおやりになったでしょう。

めぐみ:ええ、そうですねえ。小さな役から、あの、大きな役から、いろいろ、

徹 子:ねえ、まあ、元々のお声はお話していらっしゃるようなお声だと思っんですけど、さっきちょっと、おっしゃってらした、CDもお出しになって、これ新曲なんだそうすけども、あのー、声はこういうお声だということであさっきのずいぶんみなさんおわかりになったと思うし、ファンはね、もちろんおわかりだと思いますけど、映画スレイヤーズの主題歌を歌ってらっしゃる所をちょっと聞かせていただくというので、

めぐみ:おお、ありがとうございます。

(ここでReflectionが流れる)

徹 子:今、こういうのテーマソング.....

めぐみ:はい、**ガンガンガン**っていうんじゃないんですよね。

徹 子:でも、ちょうどベストテンのころの歌のような感じがするんですけど、

めぐみ:ああー、そうですか、

徹 子:まあ、感じとしてね、

めぐみ:これは、作詞もやらせていただいて、

徹 子:ああ、そうなんですか、

めぐみ:ええ、スレイヤーズって言うのが実は今年で三年目、なんですよ、三作目の劇場で、テレビアニメも三作目で、で、ずっとその、さっきちょっと流れましたけど、リナ=インバース、ていう、そのちょっとハチャメチャな女の子なんですけど、の、目線で書いた、歌なんです。

徹 子:ああ、いまのスレイヤーズの。なかの女の子ですね、リナ=インバースって。ああ、そうなん

ですか。

めぐみ:ええ。

徹 子:でもこういうCDをお出しになるとそれがチャートの三位になっちゃうって言うのは、ほんとにみんながこういうことに興味をもってらっしゃるってことですよ。

めぐみ:そうですね。まあ、びっくりって言う感じですけど。まさか、チャートに入るとは。っていう気持ちですけどね。

徹 子:そうですね。さあ、いったいどういう方が、声優さんになれるんですか、声優さんになりたいって思ってる方、いっぱいいらっしゃると思うんで、あなたが体験のなかから……じゃあ、ちょっと、コマーシャルはさみまして……

めぐみ:はい。

(-----CM-----01)

徹 子:さて、ほんとに、若い人達になりたい職業のナンバーワンが今、声優さんだということなんですけど、ねえ、声優さんになるためのアドバイスというのを、みんなまあ、夏休みでご覧になっている方もあると思うんですけど、

めぐみ:困っちゃいます……そうですねえ、いまあのほんとうにたくさんの養成所があるみたいで、なかにはそれこそ危ないぞと、というような、養成所もずいぶんあるみたいなんで、まあ、危ないぞと言うのは、ようするに、月謝だけ取って、たとえばその、オーディションテープを作りますから、あのいくらです、とか、

徹 子:お金を取る……うんうん、

めぐみ:それこそ四十万ですよとか、そんなテープに四十万はないだろう。っていうような所とか、でも、なりたいたいなりたいたいって言う子は、テープを作ってもらえるなら、って思ってしまうようで、で、そういうのにこうあやかっちゃってしまってるちょっと危険な、ところもずいぶんあるみたいなんで、まずそういうのを見極める目って言うのをどうしたらいいのかって難しいんですけど、じゃ、実際その養成所から誰がでてるだろうとか、どういう人が先生なんだろうとか、で、びっくりしてしまったのが、その、わたしの、よく知っているディレクターさんがですね、まあ、ある場所で、もしよかったらうちが養成所を作るんで、覗いてもらえませんか、って言って、ああ、時間がありましたらいいですよ。って、まあ、結構いろんな番組をやってらっしゃる結構偉い方なんですけど、まあ時間がありましたら、っていう一言を言ったら、なにに番組のなににディレクターが、監修。みたいな、風にかかれちゃったりとか、

徹 子:うーん、なるほど、だからそれを見極めるっていてもね、そういう風書いてあるとわかんないですよ。

めぐみ:難しいんですけど、実際どういう人が出てきてるかな、っていうのと、

徹 子:あなた、さっきおっしゃいましたよね、無料だった、って。養成するのが。

めぐみ:ええ、そうですね。ええ、あのそれは、うちの事務所の養成所なんですけども、無料の所も、無料って言うか、オーディションに受かった人は無料で、そうじゃない人達は、まあ月謝を取ってやってたりするんですけど、

徹 子:でもまあ、そういうところ良心的かどうかを見極めるってこともあるかもしれませんねえ。

めぐみ:そうですねえ。で、あと、あの自分、これは一概にはいえないんですけど、自分でなりたいたい時にね、あの、ほんとになりたいのかな、っていう、当然ですけど、やっぱりたとえば受験勉強がすごくいやで、なんかそっちの世界は甘そうだと思って、なんかわたしはこんなことやってるより、声

優になりたいんだ、私は声優になりたいんだって自己暗示にかけちゃって、なりたいのか、私はいちおうやっぱおやも反対したんですよ。当然大反対だったんですけど、一つ約束で、まあ、さっき看護婦を卒業したって言いましたけど、自分の意志だけじゃなくて、もちろん自分の意志もあったんだけど、とにかく学校は卒業しなさい、

徹 子:看護学校ね。

めぐみ:看護学校、卒業しなさい……で、免許も取りなさい、それからやりたいんだったら考えなさい、学生の間は一応親の領分だから、うん、あのう、ということで、まあ、親との契約というか、約束というか、親を説得するのめただ、なりたいの、お母さん、なりたいの、お父さん、じゃなくて、あのうこれからたくさんの人達をもしかしたら説得して行かなきゃいけない仕事に就くわけだから、自分の親をまず、まあ説得すること……

徹 子:なるほどねえ、それが自分が本当にやりたいかどうか、どんな犠牲を払ってでもやりたいのかということをまず……

めぐみ:そうですねえ、で、質問のお便りで、あのう、あんまりご飯が食べられない、です、らしいんですけど、ほんとですか?とか、

徹 子:ああ、収入が、

めぐみ:収入が、とかね。でも、そういう気になるのも無理ないんですけど、もちろん声優さんだっているんな人がいるし、役者さんだって、歌手だっているんな人がいますから、いきなりそんなたべれるっていうのはどの程度のことをいっているのかなあ、っていうと、バイトしながら一生懸命やっている人もいますし、だから、食べたい、安定したいなら、絶対こんなところには来ない方がいいと思うし、

徹 子:なるほどね。うーん。

めぐみ:ほんと芝居がやりたいとか、声の仕事がしたいとか、そのしたいwantの部分が自分のなかにどれくらいなんだろう、っていうのをまず、冷静に、落ち着いて、

徹 子:一時の情熱じゃなくてね、

めぐみ:うーん。考えてみて、で、ご両親と話すのもよし、お友達と話すのもよし、で、実際たとえばそのいざ動くと決めたらそういう養成所みたいなものもあるんですけど、養成所だって百人いたら百人なりたい人ばかりなんで、そんなかで、じゃあどうしたら残れるの、っていったら、今までの自分の生活をちゃんと大事にしてきてないと、うん、いままで泣く演技だって、笑う演技だってほんとおなか抱えて笑ったことがあるとか、ほんと悔しい思いをして泣いた事がある人の言葉って、やっぱ声だけでも説得力違って来ると思うんで、そういう部分、を大事にする事かなあ。っていう…

…

徹 子:うーん、たしかにあの、うまくいけばあなたのようにいろんな役をすることが出来るけど、ほんとにはっきり言って、ごく、数少ないですよね。そういう役に当たって、アニメに出られると言うことは。そりゃまあ、あのう、なんでしょ、出来ないことはないでしょうし、夢を持ってやってみることはいいことですけどもね。

めぐみ:そうかもしれないねえ……うーん……でもやっぱり、あのう、夢っていう言葉ってすごく今なんか、うーん、いいイメージも悪いイメージもあるような感じがするんですけど、その、何かなりたいもの、やりたいことがあったときに、あのう、何にもしないであきらめないで、いいと思うんですよ。

徹 子:ええ。

めぐみ:よく、ラジオとかやってて、どうせあんたには無理よ、って言う先生や親に言われちゃうらし

んですよ、それが声優って事じゃなくても、勉強でも何でも、クラブでも。で、やってもみないうちからなんでそういう事を上の人が言うんだらう、っておもうんだけど、その、あの、なんかやりたいことがあってむかって途中で、あ、ダメかも、って思ったときに新しい道が出来るので、ここにずっとならなにも見えないけど、目指したから、違う道が見えたり、ここにはもしかしたら行かないかもしれないけど、なんか歩いたら先には絶対なんかあると思うので、いきなり頭ごなしにやっても無駄とか、できっこないとか、

徹 子:そりゃまあ、だいたい大人が言いそうな感じですよええ。

めぐみ:もったいないと思うんですよええ。

徹 子:でもやってみようって思うことはいいんだけど、さっきあなたがおっしゃったようにほんとに自分でやりたいから、やらないやりたくないのか、見極めないとあとで何かがあった時に、自分で責任とれないんですよ。

めぐみ:そうですね。だから、あのう、もちろん、親兄弟、あの、その、周りの人を説得することもなんだけど、ちゃんと自分を説得するっていうか、そういうことが、大事ななあっていう。

徹 子:なるほどねえ。言いわけしたりなんたりとかあとでしないですむように、自分で責任もってやる.....

めぐみ:その意味ではやっぱり、あの、中学・高校、あのう、すぐとかじゃなくても、十分自分でじっくり考える時間があっていいと思うんで、

徹 子:そりゃそうですね。あなた看護学校お入りになって、それでお出になってから、ということですからね。始まったのもそんなに、

めぐみ:そうですね。二十一とか、二とかぐらいからヨチヨチ歩きを始めて.....そうですね。

徹 子:そうですね。だけどみなさんなりたいてことすごくわかる気もするんですよ。

めぐみ:そうですねー。

徹 子:だってほんと自分の出来ないことが、画面で出来たり、声だけでね、いろんな事出来るんですよ、そりゃ確かにこれだけ画面のいろんなものが発達してくると逆に声だけって言うのがね、いいって言うのもわかる気がしますけれども。

めぐみ:ううん。

(-----CM-----02)

徹 子:この声優ブームについてですけども、あの銀河鉄道999やってらっしゃる野沢雅子さん、ここへ来ておっしゃってたことなんですけど、私は顔が悪いから声優になりたいんです、なんていうひとみいるんですけども、やっぱりね、そういう考えだとね、ちょっと違いますっておっしゃってたんですけども.....

めぐみ:あははは、そうなんだ。うん。

徹 子:さて、あの、まあ、みなさんに今、どういう方が、まあ、ね、なれるかって言うか、まあアドバイスだったんですけど、今度はいかに大変かっていうお話ちょっとしていただきますけど、ずいぶん今日になるまでに、いわゆる通行人って言いますか、ガヤガヤ.....

めぐみ:そうですね、あの一番初めの、あの、声をやった仕事の初めての、めぞん一刻っていうアニメーションだったんですけど、その第一話で、何だあの犬、っていう台詞だったんですよ、

徹 子:でも、あったんですよ台詞が。

めぐみ:ええ、幼稚園児B、ワーッ、何だあの犬、それだけなんですけど、もう幼稚園児がいっぱいいいるからどれがどれだかわからずにまあ、大変だったんですが、そういうあのう、少年AとかBと

か、そういうのをずっとめぞんという番組で、やらせて、女子高生Aとか、やらせていただいて、で、あのう、そうですね、まあ、それを経て、オーディション受けて、あと、おそ松くんって、あのう、これもリバイバルなんですけど、ありまして、とど松って言うのを、やった、全部同じ顔なんでどれに当てていいか全然わかんないで、大変だったんですが、

徹 子:そうですね……声出すときにねえ前に声ははいてないでどの人の所に入れるのか、

めぐみ:口が開いたら自分だと思えていう感じで、ポタンの色でもかえといってくればよかったんですけど、全部同じ顔だったんで、

徹 子:そうですねえ、いっぱいいるから、

めぐみ:ほとんどとど松くんは台詞無いんですけど、とおさーんとか、かあさーんとか、そんなのしかないんですけど、そういうのをやったりとか、してましたねえ。

徹 子:やっぱりそのいわゆるまあ、普通の俳優さんで言えば通行人、っていいですかね、その他大勢っていいですかね、

めぐみ:そうです。

徹 子:あたしもNHK入ったときに、まず最初は一年間はラジオの場合はガヤガヤだぞって言われたんですよね……どうしたんですか、どうしたんですか、って、そんなね、ガヤガヤガヤガヤ……もうほんとにあの、邪魔にならない程度にね、いるかいるかわかんないけど、雰囲気盛り上げるっていうね……ガヤガヤ、ガヤガヤ……とかね、そういうんで、目立っちゃいけないって、私いつもおろされてたんですね、声が目立っちゃう……

めぐみ:目立っちゃうんですね、アハハハハ……

徹 子:あとで、声が目立つと、どうしたんですか、なんて言うと、あのう、あとでその人が出て来るだろうってラジオの場合思うわけじゃない、何も出てこないってこのだと邪魔なんでね、

めぐみ:おろされちゃって……

徹 子:そう私おろされちゃって、ずっとみんなよりも、初めは後ろの方でやらされて、みんながここでやってるのにね、3メートル4メートル後ろの方で、どうしたんですかって言うと、あ、お嬢さん、もうちょっと後ろいって、なんて言って、しまいにはドアのところね、どうしたんですか、ってやって、あ、うちへ帰っていいや、っておろされてたんですけど、

めぐみ:アハハハハ……うちへ帰っていいや……ああ、おかしい。

徹 子:まあ、そういった下ずみがありまして、ちょうど私なんかラジオ入ったら、『君の名は』っていうのがありましてね、あんときもうずーっともうガヤガヤガヤガヤやったんですよ、でもガヤガヤでもあれはしょっちゅうすれ違うんでね、地方へ行って、あの、主役のまちこさんが、どっか行って、今、博多にいたと思うと、今度尾道にいるって言うことになる、そこの人達になって、毎回方言を、

めぐみ:博多弁とか、

徹 子:大変です、博多弁が、だからそれが、しかも目立っちゃうといけないわけじゃない、何人もやるんですから、だからもうなるべくわかんないように、……

(えらいです、博多弁やけんそれが、しかも、目立っちゃうといけなかわけやなか、なん人もやるんやろから、やけん、もうなるべくわかんなくように)

めぐみ:それでもわかっちゃうかもしれない、

徹 子:そうなんです、だからその方言をどんどん勉強して三箇所、四箇所って一回の放送のなかにありましたから、そういうのをみんなやって、なんとなくスタジオにも慣れ、

めぐみ:そうですねえ。

徹 子:いろんな事ね。

めぐみ:うん、だから、その、そういうところで、たとえば、方言を学べたりとか、私もそのガヤガヤのなかの、何だあの犬、だったりしたんですけど、印象的なのが、妊婦の役っていうのがあったんですよ、生まれる一って……で、私、妊婦さんを実際見た経験はあるんですけど、取り上げるときには一緒にいったことがあるんですけど、学校で……産んだ経験はまだ無いので、どんな痛いんだろうとか、そういう小さな役でも、あの、どんなこと考えるんだろうとか、どんだけ痛いんだろうとか、なんかやっぱり……

徹 子:妊婦B?

めぐみ:妊婦Bじゃない、一人だったんですけど、

徹 子:じゃあ、妊婦、

めぐみ:苦しくて主人公の男の人が、これから面接に行かなきゃいけないのに、お願いします、助けて下さい、その人面接にいけなくなっちゃって、エピソードの時の、

徹 子:じゃあ、割と重要な、一言でも重要な、

めぐみ:そうですね、で、ずっとハーハーハーハー言っていて、なんか、

徹 子:ねえそれで、あのうまたそれがもしうまくいかなければみんなからちょっとそこんどこであなたちょっと変ですから、とか言われちゃうわけでしょ、

めぐみ:うーん。でも、ベテランさんのなかで、そんな一言でミスるわけにもいかず、緊張しつつ…

…

徹 子:そうですね、それからオーディションやるって言って、この役で受かるんだと思うと、全然別の役になったりも随分なさったんですね、

めぐみ:そうーですねえ、さっき言いましたバカボン、なんですけど、

徹 子:天才バカボン、

めぐみ:天才バカボン、平成天才バカボン、の時、はじめちゃんもうけてたんで、受かりましたって、来たとき、あ、はじめちゃんだなって思ってた、台本見たらバカボンって書いてあったり、バカボンも受けてたんですけど、いやまさかっていう……あと、らんま1/2っていう作品がありまして、

徹 子:らんま1/2、

めぐみ:ええ、これは水をかぶると男の子になっちゃったり、女の子になっちゃったり、っていう、男の、一人の子が男になったり女になったりするっていうアニメだったんですけど、で、それで私はヒロインの女の子を受けてたにもかかわらず、かぶって、水をかぶって女の子になっちゃうほうのらんま……ヒロインは受けてたんですけど、ふたを開けてみたららんまだった、

徹 子:で、それは受かりましたっていうと、じゃあ、あの役が受かったんだなと思って……

めぐみ:うちで勉強して、漫画・単行本読んで勉強して、で、いざ台本見てみると、あれえ?らんまだ。って、そういうこともありましたね。

徹 子:まあ、そういうことはね、あるでしょうねえ。そういうご苦労は、もうそれでほんと食べられるか何をして食べられるかどうかということだけれども、その、いい暮らしね、みんなが思ってるような、洋服をいっぱい買ったりとかね、なんかハンドバック買ったりとか、そういうような生活はそうは望めない……

めぐみ:ねえ……それを望むんだったら別のお仕事を……

徹 子:だからそういうものですか……

めぐみ:と思いますねえ。

徹 子:うーん。

めぐみ:まあ、芝居が好きとか、食べれる食べれないの前に、演じることが好きとか、だからたぶん、わたしはあんまり自分で苦労をしたって気が、あ、もちろん、昔の方に比べたら無いのかもしれないんですけど、要するに、あの、例えば寒いところでつりしている人に、もう、そんなところで寒くて大変でしょうっていても、その人は楽しかったり、山、あんな山をなぜ登る、その人は楽しいっていう、人から見たら苦労なんだけど、本人はあんまり苦労だと思うようなことが、無かったかな……

徹 子:で、そのためにはなんでも苦労できるっていう、他の苦労ね、例えば他の女の子達が洋服 バンバン 買ってる時に、なんにも買えなくてもそれはまあいいじゃないか……

めぐみ:そうですね、別に苦じゃないし……

徹 子:ま、そういうご覚悟があればっていうことも一つありますよね、このお仕事選ぶのにはね。

めぐみ:そうですね。

(-----CM-----03)

徹 子:林原めぐみさ……

めぐみ:アハハハハ……

徹 子:失礼いたしました

めぐみ:めぐみどえーす!

徹 子:林原めぐみ……みさんはですね、あのう、そういうアニメの声だけではなくて、ラジオ、三本やってらっしゃる、

めぐみ:ええ、はい。

徹 子:ええ、で、まあそこにいるんなお話もなさるんでしょうけど、またみなさんから週に千通か二千通のお手紙、すごい数ですね。もうせいぜい……の数ですねえ。

めぐみ:ありがたいことですねえ。そうですね。

徹 子:どういうことが多いんですか?

めぐみ:いちおうその、コーナーとかがあるので、まあ、お笑いネタとか、こんな事があったとか、まあ、例えばまあ、ながい、北海道ではもう雪が降ってるけどまだまだだったり、こっちでは桜が咲いたり、そういう季節の便りもあるんですけど、ま、基本的にそのコーナー宛のお便りが、まあ、もちろん90%なんですけど、時々やっぱり、ものすごく深刻なものを、なぜあの、いっかいのDJにこういうことをうち明けるんだらうっていうこととか、時々舞い込むんですよ。で、親にもいえなかったり、友達にもいえなかったり、っていうことを、こう、便箋でしたためられたり、で、そういうときにやっぱり、痛いんですね。

徹 子:うーん。で、そういう人達の大きな悩みが多いのがなんでしょ?

めぐみ:やっぱり、あのー、さっきもちょっといったんですけど、あの、もちろん、理解してもらえない、っていう……

徹 子:人から理解してもらえない、うーん。

めぐみ:そんなときに無駄だよって言葉で片づけられちゃうらしいんですよね。で、そのお父さん・お母さんにいっても、本気にしてもらえなかったり、でー、あのう、会話がなかったり、うーん、で、もちろん、いじめの問題のことも、いじめられてるとか、例えば登校拒否なり、で、登校拒否から立ち直って、今いけてるとか、で、いろんな痛いお便りが、届くんなんですけど、あなたぶん、ご両親が挑戦してこなかったことを、子どもが挑戦しようと思うときに、ご両親も怖いんだと思うんですよね。だからできれば安全な道を行かせてあげようって、思うんだらうけど、そういう思いやりっていうか、優しさ

が、逆にすごく子供さんを閉じこめてるっていう.....

徹 子:そりゃ、ありますね。

めぐみ:無駄って言われないで、もっとなんか話して欲しいなあってすごく思いますね。

徹 子:まあ、親としてみるとまあそれは危険な方角だし、それから、あのう、ほんとにやったら出来ないかもしれないかもしれないんだしとか、いろんなことね。親がご自分の経験からおっしゃっちゃうと思うんだけど.....

めぐみ:私もちょっと学校行きたくなくなっちゃった時期があったんですよ。

徹 子:看護学校?

めぐみ:いえ、小学校かな、

徹 子:小学校の時.....

めぐみ:ええ、の時に。で、その時に、あの、うちの親あんまりいけいけ言わなかったんですよ。学校に...。...で、もう行くのいやで行ったふりして二階で布団でこうやって寝てたりとかした日に限って、母親が布団干しに来て、何やってんのあんたって言われたりとか、したんですけど、強制的にこうしろ、ああしろって、多分言われた記憶があまりないんで、で、まあ、ちょっといじめられつつ、ちょっと教室で一人になっちゃったりとかしたときもあったんですけど、やっぱりそのときに両親が話をしてくれましたよ。そんなら一人でもいい.....

徹 子:あーそう。

めぐみ:全然いいだろう、っていう、そんなあの、トイレに行きたい、トイレフレンドって言うんですけど、ちょっとトイレ一緒に行こうよ、おべんとう一緒に食べようよ、それだけの友達ならいらん、っていう、父が、言ってて、で、なんか帰れる場所が自分のなかであったような気がして、

徹 子:やっぱり家庭って言うのは大事なんですね。

めぐみ:だから、見方、無条件な見方な気持ちになれる、場所、が、おうちに多分今思えば私にはあったのかもしれないかな.....で、それを多分、時々そのラジオパーソナリティーに求めてくるのかなっていう気がするんですよ。

徹 子:じゃあほんとに自分を理解してくれる人がいる、私なんかはまあ、『窓際のトットちゃん』って書いた、もうただ一人のそれなんですね、校長先生が私を理解して下さったって、

めぐみ:一人でも、

徹 子:一人で、たった一人でいいって私はいつも言ってるんですけど、それ理解してくれる人がいればいい、そうですね、あと自分の事をほんとに愛してくれる人がいれば、いい、そういうことですよ。(ひまわり)

めぐみ:そうですね。

(-----CM-----04)

徹 子:あ、ごめんなさい、なりたいたいなりたいて、

めぐみ:あ、あ、っていうか理解してくれないくれないって思ってないで、まああの、もちろん、理解してくれる人が一人、さっきおっしゃったようにいれば、いいんだけど、あの、それをこう理解してもらうにはどうしたらいいんだろうなっていう事を考えていると、あのう、すぐには現れなくても必ず絶対近くに現れると思うので、誰もわかってくれないって閉じないで、欲しいなっていう事、子どもたちには思いますけど。

徹 子:で、アニメの声やってらっしゃるのは楽しいですか?

めぐみ:楽しいですね。

徹 子:あ、そーう。

めぐみ:うーん。私は本当に声の仕事が好きなんだなあっていつも思います。

徹 子:ああそう。じゃあ、看護婦さんの仕事一応まあ、やめたわけですけど、

めぐみ:そうですね、

徹 子:看護婦さんのお仕事は今でも役に立っていて、随分いろんな所いらっしゃるときに、子供と一緒になんか、イベントとか色々あるでしょう、子ども。そういうときに子どもの具合が悪い時に、ちょっと看護婦さん.....

めぐみ:アハハハ.....そんなことありました。

徹 子:そうですね、元看護婦さん。

めぐみ:ええ。なんかあの倒れちゃったり、会場で倒れてしまった、お子さんがいらっしゃって、で、ひきつけを起こしちゃって、で、当然その会場に医師・看護婦はいないので、ちょっと.....って呼ばれてなんか、しっかりメイクして、すっかり衣装着て、なんか客の所に、**づかづか**出てって、脈取ったりとかしちゃって、何してるんだろうって感じでしたけど。

徹 子:そうですね。

めぐみ:そんなこともありました。

徹 子:ですからまあ、ほんとにあの、役に立つことはあるでしょう。お勉強をなさった、人間観察だけでなしにね。

めぐみ:ありますねえ。そうですねえ。

徹 子:まあ、そういういろんな体験をなさるって言うのは、素晴らしいと思うんだけど、それからまた世界のアニメのなんて言うんでしょうね、こう.....

めぐみ:ああ、**アニメアメリカ**って言いまして、あの、アメリカの一年に一度くらい、日本、ジャパニメーションって、日本のアニメーションに興味を持ってる、あの、外国人の方が集まって、ホテル一つもドンと貸し切って、コンペションを開かれるんですよ。

徹 子:へえ。

めぐみ:で、まあ、一応、字幕、日本の声で、あの、字幕で見るのがどうやらステイタスらしく、え、そんなところに、

徹 子:ああ、向こうの声で入れちゃわないでね、

めぐみ:ええ、そんなところにもちょっと.....向こうの方は明るいですね。びっくりしたのが、イヤー、アイムオタク!とかいって、オタクオタク、ワハハ、とかっていってたりして、

徹 子:もうオタクなんて言葉はむこうで出来ちゃってるの?

めぐみ:もうそんな風に、言うとは、って言う感じで。すごく楽しげに。

徹 子:アイムオタク、ウフフ。

めぐみ:オタク、っていって。

徹 子:日本だとほら、オタクなんですってねって.....

めぐみ:いいイメージがあまりないですけどね、日本の方も.....

徹 子:だからむこうはアニメが好きで、日本のアニメをずっと見ているからオタクだって言うわけなの?

めぐみ:どうなんでしょうね。

徹 子:アイムオタクって言ってるの。

めぐみ:ええ、いい意味に使っているようですね。日本もそうだといいんですけどね。

徹 子:ええ。そこでは向こうのアニメとかは見ないの？

めぐみ:ああ、そこでは見ないです。そのホテルでは、

徹 子:ああそうなんですか、その日本のアニメを見るっていうのでコンベンションみたいなものが、ある、

めぐみ:ええ、一つの文化として……ありがたい、うれしいことですね、その、

徹 子:だって、あなたのいかにその……なんですか、エヴァンゲリオン、の、あなたの、

めぐみ:綾波とか、

徹 子:綾波が人気があるかって事があなたの綾波レイの等身人形も売っているんですっ？

めぐみ:そうですね。びっくりしました。

徹 子:ねえ。

めぐみ:なんかびっくりしましたって他人事なんですけど、まあ、ちょっとキャラと自分とはまた違う、距離がありますから、

徹 子:なるほど、あなたの等身人形じゃなくて、

めぐみ:それはないです、ハハハハハ。

徹 子:綾波レイの等身人形だからって事もあるんでしょうけどね、でもこれからまたね、みなさん……

めぐみ:時間が……

徹 子:もう時間でしたね。また……

めぐみ:また、

徹 子:ほんとありがとう。

めぐみ:ありがと……

(-----CM-----05)

徹 子:そう屋久島にいらっしゃったんですってね。

めぐみ:ええ、そうなんです。

徹 子:写真が……ああ、これすごい。

めぐみ:切り株です。すごいです。

徹 子:これはあなたの何かアルバムのなんか表紙、

めぐみ:これはポスターなんですけども、

徹 子:ポスター、

めぐみ:表紙はまた別に、

徹 子:樹の切り株？

めぐみ:そうです。こんなに大きいのが。もしほんと機会があったら、ぜひ命のせんとくに屋久島へ、行って下さい。いいとこです。



終わり。最後に「めぐなび」